

失敗をおそれず、挑戦しよう！

清々しい秋晴れの日が多くなり、子どもたちが運動場で遊ぶ日が多くなっています。「芸術の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」……など、何をするのにもよい季節ということでしょうか。

さて、四月からの新しい年度も折り返し地点を迎えました。この時期は、年度当初思い描いていた「〇〇をするぞ！」といった、目標をもって挑戦しようとする思いが、だんだんと薄れてくる時期でもあります。そんな時だからこそ、今一度、「失敗を恐れず挑戦すること」をがんばってほしいと思います。

しかし、この「失敗を恐れず……」が難しいのです。オリンピック種目にもあった柔道では、「勝ちたい」という思いが強くなりすぎ、「負けたら（失敗したら）いけない！」という気持ちに変化し、最終的には消極的な態度となり、「指導」を何度も受け敗れていく選手が多くいました。そして、逆に「失敗をおそれず」今までは勝てなかった選手に対しても、どんどん立ち向かった選手が勝利を収めることが多かったようです。

さて、子どもたちに目を向けると、授業の時には、「よい考え（正しい答え）」を言わなければならないと思うがあまり、「間違っではいけない」という気持ちが強くなり、発言しようかどうかと躊躇してしまう子どもが多くいます。また、ふだんの生活の中でも、ここで「大きな声で返事をする（正しい反応をする）」と、周りの人から何か言われる（思われる）のではないかと、返事の声が小さくなったり言えなかったりすることもあります。

一方で、休憩時間に、間違っても間違っても、何度でも鼓隊の演習をする子ども達の姿をよく目にします。学級全体では発表できなかった自分の思いをグループ学習でがんばって伝えようとしている子ども達も多くいます。このように「失敗したくない」という思いを「挑戦しよう」という姿に変えた原動力は、周りに思いを受け入れる（認める）人がいるかどうかだと改めて感じているところでは、「よい返事をありがとう。」「間違ってもいいよ。」「言って（やって）ごらん。」「そんなこと思っているんだね。」「……」などと、「失敗してもよいことや「聞いてるよ」という言葉を周りからしっかりと子どもたちに伝えていくこと

を続けていくことこそが、「間違ってもよい」「挑戦しよう」という気持ちを子ども達にもたせることにつながっていくのではないのでしょうか。今日もがんばってあいさつや返事をし、迷いながら挑戦している子ども達に、「〇〇してもいいんだよ。」「よいあいさつ（返事）をありがとう。」と子ども達に返して、子ども達の挑戦する心を育てていきたいと思います。

